



公益財団法人

日本体育協会



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

〔平成28年度総集編〕



3 連載

テーマ別運営事例集

このメールマガジンはスポーツ振興くじ (toto) 助成金を受けて配信しています。

☒ スポーツ振興くじ (toto) についてはこちらから

[日本スポーツ振興センター HP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

INDEX

みんなで盛り上げよう！東京オリンピック・パラリンピック

■第126号 [平成28年5月23日発行]	
平成27年度SC全国ネットワーク総会 グループ協議 概要報告	3
■第128号 [平成28年9月20日発行]	
NPO法人 SPORTIVOひがしいずも	7
よろずや広島北	10
■第129号 [平成28年11月21日発行]	
座談会 クラブマネジャーが考える総合型クラブの未来	13
■第130号 [平成29年1月20日発行]	
群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	21
認定NPO法人 朝日丘スポーツクラブ	25
■第131号 [平成29年3月21日発行]	
香川県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	29



みんなで盛り上げよう!

東京オリンピック・パラリンピック

平成27年度SC全国ネットワーク総会 グループ協議 概要報告

地域がつながる オリンピック・ムーブメント、 クラブがつくるユニークなアクション

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催まであと4年となり、全国の総合型クラブが地域においてオリンピック・ムーブメントに取り組むきっかけとなる情報やアイデアを共有する機会とすることを目的に、SC全国ネットワークの代表委員がグループ協議を実施しました。

今回は、オリンピック・ムーブメントの概要やグループ協議で出たアイデアをご紹介します。ぜひ、みなさまのクラブの活動にも取り入れていただき、全国で東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げていきましょう!



オリンピック・ムーブメントとは

オリンピック・ムーブメントとは、国際オリンピック委員会（IOC）の統括のもと、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現をめざす活動です。この活動は世界中で行われており、オリンピックの五輪のマークがそのシンボルとされています。

■ オリンピック・ムーブメントの活動

オリンピック・ムーブメントは選手やオリンピック関係者だけのものではなく、代表的な活動としてドーピングの撲滅・女性の参画・経済支援などがあげられます。また、身体障害者を対象とした世界最高峰のスポーツ競技大会「パラリンピック」も、大きなオリンピック・ムーブメントのひとつです。

オリンピックの開催は人々に大きな夢を与える最大の祭典であり、同時に、オリンピックの基本精神と理想を多くの人々に広く理解してもらう最高のオリンピック・ムーブメントでもあります。

IOCは、「スポーツ・文化・環境」をオリンピック・ムーブメントの三本柱としています。

スポーツ

〈JOCの活動〉

- オリンピックデーラン
- オリンピックデーフェスタ
- オリンピック研修会
- オリンピック親子チャレンジ
- 広報誌「オリンピアン」発行 など

〈その他〉

- パラリンピック種目の体験会 など

〈総合型クラブでの取り組み例〉

- 地域住民でオリンピックの記録に挑戦（広島）
- クラブ交流大会で東京2020ブースを設置（熊本）



文化

〈JOCの活動〉

- 絵画／作文コンテスト
- オリンピックコンサート
- ラジオ番組 など

〈その他〉

- 観光PR
- 伝統芸能や文化の紹介、映画、文学・音楽
- 一校一国運動
- ボランティア教育 など



※2012年ロンドン大会では約18万件の文化プログラムが4年間で実施されました

環境

〈JOCの活動〉

- スポーツイベントの際に行う環境問題に関するPR
- 環境活動に対するPRポスター作成
- JOCスポーツと環境・地域セミナー

〈その他〉

- グリーンビルディング（活動団体を表彰）
- 首都美化デー（1964年） など



出典：（公財）日本オリンピック委員会（2014）「JOCの進めるオリンピックムーブメント」

総合型クラブとオリンピック・ムーブメント

地域のスポーツ団体（スポーツ少年団・体育協会加盟団体・スポーツ推進委員等）や障がい者の方々、文化活動団体等、様々な団体と連携するきっかけとして、総合型クラブから提案する絶好のチャンスです！

より多くの住民がスポーツやクラブの活動に興味を持つことで、クラブ運営にもプラス効果が期待できるかもしれません！

以下の内容は、グループ協議で出された具体的な取組案です。各クラブにおいても、実施を計画されてみてはいかがでしょうか？

総合型クラブで取り組むことができそうなアクション アイディア集

スポーツ

- マラソンリレー
- オリンピック体操をクラブで作成
- クラブフェスティバルへオリンピックやパラリンピアンを招待
- ブラジル・リオデジャネイロから東京までの距離を分割して、様々な種目の実施・交流
- オリンピック・パラリンピック種目体験会の実施
- オリンピック・パラリンピック模擬大会の開催
- ご当地版ラジオ体操の実施



文化

- ボランティアの育成
- 国を決めて応援
（手作り応援ボードの作成／姉妹都市ツアー1クラブ1国応援キャンペーン等）
- 参加国の言語・文化・歴史の情報収集
- 新作五輪音頭の作成
- 地域特選品を活用した食事提供（地域のPR）
- どこでもパブリックビューイング
（学校／公民館／市役所、町・村役場／クラブハウス等）



環境

- スポーツゴミ拾い
（体育の日やオリンピックデーに実施し、オリンピックを身近に感じるとともに環境問題への意識を持つことにつなげる）



6月23日はオリンピックデーです！

皆様のクラブでも記念イベントを実施してみませんか？

＜オリンピックデーとは＞

1894年6月23日のIOC創設を記念して、1948年に定められました。



アクション&レガシープランについて

SC全国ネットワーク総会では、東京2020大会組織委員会から「アクション&レガシープラン（中間報告）」についての情報提供とともに、全国の総合型クラブに期待することについて、お話をいただきました。

東京2020大会組織委員会では、多様なステークホルダーが連携して、東京2020大会の先にレガシーを創出するためのアクションを推進していくために「アクション&レガシープラン2016」を策定する予定です。

2016年1月に公表された「アクション&レガシープラン2016中間報告」については、東京2020大会組織委員会のホームページで公表されています。

URL：<https://tokyo2020.jp/jp/games/legacy/>

アクション&レガシープランは「全国各地域の様々な主体の『参画』によるアクションの具現化と継続性（大会後も継続する取組）があってこそ、実現するもの」であり、全国の総合型クラブやSC全国ネットワークの取組に期待されていることは、以下のとおりです。

■ 全国の総合型クラブ／SC全国ネットワークへの期待 ～アクション&レガシープランの実現に向けて～

東京2020大会をひとつのきっかけ、変革のチャンスとして、

- 全国の総合型クラブが地域の核となり、スポーツの力で課題解決を促進する
 - SC全国ネットワークが核となり、東京2020大会を視野に全国のそれぞれの協議会やクラブで共通プログラムに取り組むなど、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進しながら、地域のスポーツを振興する
- ⇒ 全国のクラブや各地域の協議会が新たな主体と連携したり、これまでとは異なるアプローチを採用するなど、「2020を契機とした革新」を進めることにより、取組のインパクトが拡大したり、地域におけるクラブの存在感が一層向上していくのではないかと

今回ご紹介した「グループ協議」でのアイデアに加え、上記の「中間報告」（特に、スポーツ・健康分野の）「残すべきレガシー」や「アクション例」なども参考にしながら、皆様のクラブではどんな取組ができるかを、ぜひ検討し、実行してみてください!!





みんなで盛り上げよう！

東京オリンピック・パラリンピック

オリンピックデー 2016

みんなで42.195km歩いて走ってつながろう！

[NPO法人 SPORTIVOひがしいずも]

国際オリンピック委員会が創設された6月23日は、「オリンピックデー」として世界中でさまざまなイベントが行われています。

今回は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けてクラブが行ったオリンピックデー関連の取り組みを紹介します。

●実施日時 平成28年6月21日(火)

●実施会場 東出雲体育館

●参加者数 114名

1 実施経緯

一昨年、広島県北広島町のオリンピックデーイベントでみんなでマラソンをリレーしているのを知り、「これならできる!」ということで昨年の6月23日(火)に初めて活動しました。

2 企画内容

体育館アリーナに周回コースを設置し、42.195kmをリレー形式でバトンをつなぎました。歩いても、走っても参加が可能で、一人が何周まわってもかまいません。

昨年(開催1回目)のタイムが3時間32分19秒だったものが、今年は2時間32分43秒で、114名が42.195kmをバトンでつなぎました。

昨年は、中高年の方はほとんど歩いての参加でしたが、今年はその方々がみなさん走って参加されました。「今年は走ってるー!」と、自分たちで1年間の活動の成果を喜んでおられました。

スポーツ少年団の子ども達は、普段は走る練習が好きではありませんが、この日はリレーにしているので負けられない気持ちが強く、普段とは大違いの姿を見ることができました。特に夕方からはスタート位置を二つに分けているので、「ぬけー! 負けるなー!」の声援が大きくなっていきました。その姿を見た指導者からは、「こんなに走ってくれるなら喜んで参加しますよ」との声がありました。

1周が100m程度のため、高齢者の方も参加可能であり、そこから幼児など子ども達に繋ぎ、さらに小学生の低学年、そして高学年に繋いでいく姿が見られました。

おばあちゃんから孫へのバトン渡し……すごくうれしいですね。総合型スポーツクラブらしいなと思っています。



3 今後の展望

現在は、参加しているのが一部のチームや教室の参加者のみのため、もっと多くのクラブ会員に参加してもらえるようにしたいと思っています。

東京五輪に向け、県内のクラブをつなぐリレーイベントにできれば、地方でもよりオリンピックが身近に感じられるのではと感じています。

クラブプロフィール

設立年月日：平成22年3月16日

所在地：島根県松江市東出雲町

特徴：『健康』をキーワードにしたスクール事業を中心に始まったクラブも、現在は30を超える教室数となりました。その中でも子どもたちが参加できる種目を毎年増やしており、現在は1,000人を超す会員数の半分が中学生までの子どもたちです。元気な声が、体育館中に響いています。

■連絡先

郵便番号	699-0101
住所	島根県松江市東出雲町揖屋1139-2
T E L	0852-52-6722
F A X	0852-52-6821
Eメール	soutai-k@web-sanin.co.jp
ホームページ	http://sportivo-h.org/



みんなで盛り上げよう!

東京オリンピック・パラリンピック

オリンピックデー 1,500m世界記録に挑戦!

[よろずや広島北]

国際オリンピック委員会が創設された6月23日は、「オリンピックデー」として世界中でさまざまなイベントが行われています。

今回は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けてクラブが行ったオリンピックデー関連の取り組みを紹介します。

●実施日時 平成28年6月22日(火)

※23日が休館日の為オリンピックデーの前日に実施

●実施会場 北広島町豊平中学校体育館 16:30～

北広島町千代田総合体育館アリーナ 16:30～

●参加者数 北広島町豊平中学生 75名

北広島町千代田中学生 40名

1 実施経緯・目的

東京五輪開催決定を受け、3年前より広島でも東京五輪に関心を持つことで、五輪の開催意図や、五輪後のレガシーを若者を中心に考えさせることを目的として実施しました。

2 企画内容

男子1,500m走の世界記録「3分26秒」に、5人1組でリレー式で挑戦しました。

豆知識

		タイム	〈参考〉 100m平均
世界記録	男子1500m	3分26秒	13.7秒
	女子1500m	3分50秒	15.3秒
日本記録	男子1500m	3分37秒	14.5秒
	女子1500m	4分07秒	16.5秒



3 今後の展望

豊平中学校のタイムは3分56秒、千代田中学校のタイムは3分36秒でした。

今回は世界記録へは届きませんでしたが、参加した中学生たちは、世界記録という速さを自分の足で感じ取ることができ、そのことで興味や関心を示していました。

リオ五輪においても、陸上種目に限らず他の種目にも興味を持つことに期待をし、東京五輪後のレガシーについても今後教育委員会と連携し、当クラブより学ぶ機会を作っていくことが大切であると考えています。

また、JA広島市農協と協働した東京五輪観戦積立も行っています。



クラブプロフィール

設立年月日：平成21年6月10日

所在地：広島県山県郡北広島町

■連絡先

郵便番号	731-1712
住 所	広島県山県郡北広島町都志見2609 とよひらウイング内
T E L	0826-84-1414
ホームページ	http://toyohira-gap.jp/



みんなで盛り上げよう!

オリンピック・ムーブメント



菊地 正氏

河野 景子氏

鹿内 葵氏

大崎 恵介氏

総合型地域スポーツクラブ 座談会 「クラブマネジャーが考える総合型クラブの未来」

座談会メンバー

- 大崎 恵介氏 (アスとれ総合型クラブ クラブマネジャー／山梨県)
- 河野 景子氏 (NPO法人 都農enjoyスポーツクラブ クラブマネジャー／宮崎県)
- 鹿内 葵氏 (NPO法人 スポネット弘前 理事長／青森県)
- 菊地 正氏 (当メールマガジン編集委員長：NPO法人 高津総合型スポーツクラブSELF 副理事長・クラブマネジャー／神奈川県)

世界中に大きな感動を巻き起こしたリオオリンピック・パラリンピックが閉会し、2020年の東京オリンピック・パラリンピック(以下、東京2020)の開催もいよいよ4年後に迫ってきました。

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が本年7月に公表した「東京2020アクション&レガシープラン2016」では、プランを成功させるための5つの柱の1つに「スポーツ・健康」を掲げています。この柱を担うと考えられるのが総合型クラブであり、東京2020を契機に全国の総合型クラブがより地域に定着することが期待されます。

そこで今、総合型クラブの現場で活躍されるクラブマネジャーが東京2020をどのように捉えているか、また全国の総合型クラブが取り組むことができるオリンピック・ムーブメントはどのようなものがあるか、2020年、そしてそれ以降も含めた総合型クラブの未来についてお話をいただきました。

リオオリンピック・パラリンピック大会の様子

リオオリンピック・パラリンピックの期間中、ブラジル・リオに設置された「Tokyo2020 JAPAN HOUSE」(以下、ジャパンハウス※1)にて、活動された大崎氏から現地の様子や印象をお話いただきました。

※1 ジャパンハウス

リオオリンピック・パラリンピック期間中に現地でオープンしていた、東京2020や東京という都市自体をアピールするための施設。各種展示物のほか、浴衣の着付けや書道といった文化体験コーナーが人気を博した。

司会：大崎さんはリオの現地を体験されて、どのような感想を持たれましたか？

大崎：日本に関していえば、次のホストシティなので日本選手にすごく注目が集まっていた。他にもパラリンピック種目は、ブラジルの方がほとんど知らないような種目が多いので、選手を見ることで「こんな種目があるんだ」と認識するきっかけになったと思います。また、スポーツの多様性、そして選手との親密度・親近感という意味で、子どもたちに非常に影響があったのではないかと感じました。パラリンピックは音を出して応援していい場面といけな場面があります。ブラインドサッカー※2なら音で判断するため声を出してはいけないので、そういう教育的な側面を持ちながらパラリンピックを観戦するというのも、印象に残りました。



大崎恵介氏

また、私が運営に携わっていたスポーツ庁ブースで世界中の人々が一番感動したのは「羽子板のデザイン」でした。いわゆる日本人形のような伝統的なデザインでしたが、「なんて美しいの！日本はこういうものがたくさんあるの？」と言われて、現地の方々から「欲しい！」とお願いされました。ただ、1個しかなかったのであげられなかったです(笑)。ここで気づいたのが、羽子板という遊び・スポーツではなく、そのデザインが評価されたことです。つまり、こちらが見せたいものと向こうが見たいものが異なるわけです。そのギャップをどう埋めていくかが必要であり、日本の人々と世界の人々が望む2つの側面を同時に披露しなければならないという点で、オリンピック・パラリンピックはすごく難しいイベントなのだなと感じると同時に、現地の方々からは「あなたたちの2020年はもっとすごいものになるんでしょう？」というプレッシャーもかけられましたね。

※2 ブラインドサッカー

視覚障がい者のためのサッカーで、全盲の選手により行われる。ボールの音とガイド役の声による指示でプレーするため、応援にマナーが求められる。

リオから東京へ 地域×東京2020×総合型クラブ



河野景子氏

司会：大崎さんのお話では、世界の人々と私たち日本人では、同じ日本でも全く見方が違うとのことですが、地域に根付く文化や日本独自の魅力を世界にアピールする上で、地域の目線、そしてクラブの目線では、どのような取り組みが考えられますか？

河野：総合型クラブだけではできないことも多いと思うのですが、逆に総合型クラブだからこそ何かできることがあるのではないかと考えています。地域単位で考えたときには、その地域の行政と手を組んでできることもある

と思いますし、地域にあるいろいろな団体と繋がることで、多くの可能性がでてくるとも思います。

ですので、地方に住んでいてもオリンピック・パラリンピックを他人事じゃなく何かしらの形で参加できるものにしたいです。海外の選手たちを迎える準備に携わるとか、オリンピックのグッズが地方でも買えるとか、選手が東京以外の地域にも来てくれるとか。そういうことを期待しますし、実現できたらいいなと思います。

鹿内：ロンドンの時も、そういう底辺（地域単位の活動）の拡大や英国全土における文化プログラムの実施にすごく力を入れていたようです※3。ですので、日本は総合型クラブを中心に、スポーツ文化の土壌を地方まで広げることにはチャレンジできると思います。



鹿内葵氏

ただ、2020年が到着点ではないので、そこから新しく出発しなければいけません。どういう仕組みをつくるかも大事ですね。どういう仕組みがあれば、（スポーツを通して）子どもからお年寄りまで楽しめる環境ができるのか。それを世界に示す機会であってほしいなと思います。

※3 2012年ロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会

大会開催4年前の2008年から「カルチュラル・オリンピアド」と題した大規模な文化プログラムがロンドンのみならず英国全土で開催され、合計で約18万にも及ぶ様々な文化イベントに約4,300万人の人々が参加した。

参考：http://iccliverpool.ac.uk/wp-content/uploads/2013/08/London_2012_Cultural_Olympiad_Evaluation_ICC.pdf

河野：せっかく海外の方々が日本に来てくれるので、その地域にある素敵な「おもてなし」ができればいいですね。観光地や神社仏閣であったり、その土地の自然を紹介したりすることも「おもてなし」だと思います。選手が頑張っている姿や、地域に来ていただくことを通して、私たちが元気をもらう代わりにそういうおもてなしでお返りする。「やっぱり日本っていいところだな」と感じてもらえることを発信できればと思います。

日本人のマナーがいいと言われているのも、日本文化から生まれていると思います。「もったいない」という言葉もありますし、お米でも水でも何でも敬う心、大切に作る気持ち日本人にはあると思います。2020年に向けて、そういう日本文化をもう一度見つめ直すきっかけになるのかなと思いますね。

菊地：繋がりと総合型クラブというキーワードで言うの一つ考えていることがあります。震災等、災害が発生したときには体育館を中心に避難すると思いますが、そこでの生活は非常に大変です。例えば、地方と都市とで離れたクラブ同士、もしくは同じ地域のクラブ同士がこれからもっと交流を図り、繋がることで、ある地域が被災したときに別の地域のクラブで被災者を受け入れられる態勢をつくる。それは災害大国といわれる日本だから、そして総合型クラブだからできることだと思います。



菊地編集委員長

もちろん、いきなり知らない人たちがいる場所に行ったのでは大変な状況は変わらないので、そのクラブ、地域と何度も交流をしていることが前提です。そうすれば友達付き合いもできてきて、通常の避難所よりは居心地のよい環境ができると思います。どの地方でも災害は他人事ではないので、交流を深めてそういう繋がりをつくりたいですね。そして、鹿内さんもおっしゃっていた仕組みという点では、このような総合型クラブを中心とした地域の繋がりを世界にアピールすることもできますね。

河野：東京で2回目のパラリンピックが開催されるので、障がい者スポーツにも着目したいですね。私の地域の行政とは、「障がい者に優しいまちづくりじゃなくて、障がい者も楽

しめるまちづくりにしたいね」と話しています。

私たちの街で開催している蹴-1GP※4では、障がい・福祉の分野との融合も意識していて、(健常者と)障がい者とのカテゴリも分けていません。同じ条件で対戦できるようにしています。こういったアイディアも地域にどんどん取り入れていければと考えています。

※4 蹴-1GP

読み方は「けりワングランプリ」。NPO法人都農enjoyスポーツクラブが事務局を担う、PK大会に特化したフェスティバル(今年度から一般社団法人蹴-1協会が主催)。

菊 地：障がい者スポーツとオリンピックの繋がりで考えると、例えば、障がいを持った子どもたちがオリンピックの開会式でプラカードを持つとか、車いすで先導するとかはできるわけで、そういう参加の仕方をぜひやってほしいなと思います。オリンピックでそういうことができれば、もっと盛り上がるし関心も高まるはずだと思っています。

総合型クラブは何ができるのか？

オリンピック・ムーブメントのアイディア

司 会：皆さんのお話は、まさに総合型クラブだからできることだと思います。それでは、今度は具体的にオリンピック・ムーブメント※5として、地域や総合型クラブができるアイディアをお聞かせ下さい。

※5 オリンピック・ムーブメント

オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のこと。代表的な活動として、ドーピングの撲滅、女性の参画、経済支援などがあげられる。

参考：www.joc.or.jp/movement/data/movementbook.pdf

1 日本独自の文化を海外に発信し、世界と繋がる

大 崎：スポーツ・フォー・トゥモロー※6の事業で「アフリカで運動会を開催しよう」というものがありました。オリンピックを説明するときに「大きい運動会」という言い方をすることがありますが、これはあながち間違っていないと思います。大勢の人たちの交流の中で競技が進んでいき、選手はしっかりと全力を出し切る。それを見て多くの人が喜ぶ。そういう日本人が当たり前やってきたことが、海外ではすごく評価されることがあります。

※6 スポーツ・フォー・トゥモロー

東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年までに、官民連携のもと開発途上国を中心とした100カ国・1000万人以上を対象に推進されるスポーツ国際貢献事業。

参考：<http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>

司 会：ラジオ体操もそうですね。地方では方言を使用したラジオ体操もありますが、海外向けに英語版もでていますね。

大 崎：海外だと反応がすごいですよ。ラジオ体操の音楽がかかったらみんな同じ運動ができるということがすごく不思議らしくて。途中の跳躍のところはジャンプにあわせて声を出したり、手拍子を始める人も出てきたりして、どうやらダンスにも見えるらしいです。スポーツでもそれ以外でも、世界の反応を見て、改めて日本のことを知るいい機会だと思いますので、日本の文化を発信していくことが大事だと思います。

河 野：オリンピック・パラリンピック開催までの準備として、例えば私たちが書いた絵が選手村に飾られ選手たちが見てくれるとか、書いた手紙が海外の選手たちに届くとか、具体的な繋がりが持てたらいいですね。「開催されました」で終わりではなく、準備段階で関わることで他人事から自分事になっていくと思います。

鹿 内：下請けというのは変ですけど、クラブで応援フラッグとか作らせてほしいです。「あれ、うちが作った応援フラッグだよ!」と言えますし、そういう関わり方はできるかもしれないですね。

河野：作ります！（笑） 選手もそうですが、観光として来日された方々向けに何か仕掛けたいですね。全国のクラブ・地域同士がすぐに繋がるうとしても難しいと思うので、何かコンセプトが共通するクラブ同士、地域同士で何かやってみるのはどうでしょう。

例えば、宮崎は神話の国と言われているのですが、それは神武天皇が生まれた土地だからなのですね。それで、神武天皇が東に向かう際に通った地域・クラブと連携して、日本らしいストーリー性を持ったツーリズムと一緒に考えると。あと、同じコンセプトのクラブと神楽（かぐら）※7を練習して、開会式で踊るとか。いろいろ楽しいことが考えられると思います。とにかく何かで関われたらいいんですよね。小さなことでも。

※7 神楽（かぐら）

民俗芸能のひとつで、神に奉納するための歌や踊りのこと。

② ボランティアとしての関わり

司会：昨年、平成27年2月に本メールマガジンでは、「みんなで“参加する”オリンピック・パラリンピック」と題し、スポーツボランティアを特集しました。※8 その中で、クラブの活動やイベントに普段から携わっている方々がボランティアとしてオリンピック・パラリンピックに関わるという話題も出ました。

※8 みんなで“参加する”オリンピック・パラリンピックへ」

（公財）日本体育協会発行 総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン第112号（平成27年2月20日）

参考：http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabushien/MM112_BN.pdf

鹿内：ボランティアに参加した人たちが、今度は地域のイベントを開催するとか、クラブの活動に関わってくれとか、繋がりを持って一緒にやっていければいいですね。オリンピック・パラリンピックがきっかけになって「自分の地域でも何かできるんだ！ 盛り上げられるんだ！」という達成感が生まれて、地域に還元できる仕組みが望ましいですね。

菊地：日本ではボランティアの意義とか喜び、価値観がまだまだ浸透していないと思います。オリンピック・パラリンピックを機にそういう意識を多くの方々に持っていただければ、2020年以降のレガシーにも繋がっていくと思います。

オリンピック・ムーブメントアイディア集

- オリンピック・パラリンピックの1日疑似体験
- 総合型クラブ・総合型クラブ連絡協議会にてスポーツボランティアや英会話ボランティアを養成する。
- クラブ会員一人一国応援運動
- 応援メッセージボードの作成
- 地域のトップアスリートを紹介・応援
- 総合型クラブ・総合型クラブ連絡協議会へのパラリンピアン派遣による教室・イベント開催

※平成28年3月2日に開催した「平成27年度SC全国ネットワーク」グループ協議の際に、SC全国ネットワーク代表委員の方々から出されたアイディア（一部）

司会：皆さんのアイディアは、どれも今からできることですね。（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、本年10月より、オリンピック・パラリンピックへの多くの人々の参画を可能にする「東京2020参画プログラム」として、全国各地で応援プログラムを実施しています。このような流れからも、今後より多くの地域において、オリンピック・ムーブメントが拡大していくと思います。

河野：ひとつのクラブだけではできなくても、クラブが繋ぎ目になることで誰かの夢が続くこともあると思います。

大崎：4年後、オリンピック・パラリンピックが日本にやってきたときに、準備も含めて一歩踏み出せるような仕掛けをつくるのがすごく重要だと思います。東京2020は、もう今から始まっていますからね。

100年つづくクラブとなるために

未来に繋げるために、クラブができることは

大崎：オリンピック・ムーブメントとは何かを考えるとともに、スポーツの価値・意義を明確にしていく必要があると思います。また、それに対して自分のクラブの理念をしっかり見直す必要があるのかなとも感じます。

「このクラブはこの地域のために何をするのか」という明確なビジョンや理念、信念を持つことは、地域課題を解決する上でも重要です。クラブの進む方向がはっきりすることで、地域住民や様々な団体が「これがやりたいのか」と理解することができ、一緒に課題解決に向けて進むことが可能になると思います。

菊地：やっぱり、クラブから地域にどんどん発信していかないといけないと思います。例えば、行政がやることには限界や制限がありますが、クラブは何でもできますからね。まちづくりはクラブが主役にならないとだめで、自分のクラブができること・やるべきことをしっかり把握した上で行政に訴える。その成果が出てくれば当然行政も動くわけです。首都圏だと行政の担当者も3年くらいで代わる人が多いので、なかなかクラブへの理解を浸透させることは難しいのですが、それを続けていかないとクラブも育たないし、地域にも貢献できません。地域の他の団体にはできないことでも、総合型クラブにはできる可能性があるし、やらなければいけないと思うのです。具体的に何をやるかは地域によって違うでしょうけども、大事なことは我々がリーダーシップをとることです。

鹿内：地域課題への取り組みを、オリンピック・パラリンピックとどうリンクさせていくかを考えなければいけないと思います。

地方の話を少しさせていただきますが、いま弘前ではプロ野球の一軍の試合が29年ぶりに開催されることが決定し、野球場を改修したり、ソフトボールの東アジア杯の開催地に決まったりと※9、スポーツ熱が非常に高まっています。

しかし現場はどうかというと、野球やソフトボールの試合を見て自分もやってみたいと思っても、少子化の影響でスポーツ少年団や部活がないという現状なのです。つまり、夢ばかり見させても、実際には子どもたちがプレーできない。このムーブメントとは、総合型クラブがオリンピック・パラリンピックを活用し、それを契機に何か始めていくということですね。

※9 ソフトボール東アジア杯

前ソフトボール日本代表監督の齋藤春香氏は現在弘前市の職員で、ソフトボールの普及に力を入れている。第6回東アジアカップ女子ソフトボール大会は2017年6月17～22日に開催が決定。

司会：そうですね。ものすごく影響力がある東京2020が終わった後、クラブが地域に対して何ができるかを考えて、準備する必要がありますね。

鹿内：高齢化や少子化は世界でも直面している問題で、そのときに「日本はこうやってるんだよ」と見せられるのは一種のレガシーだといえます。それが、日本の財産になると思います。

菊地：そうですね。オリンピック・パラリンピックでどう変わるかじゃなくて、自分たちがどう変えていくかだと思います。

司会：それぞれの地域課題を解決していけば自然と全国のクラブは繋がっていくはずなので、そのためにもオリンピック・ムーブメントを全国展開していきたいですね。



総合型クラブの強みは「繋がり」

司会：今までのお話の中では、「繋がり」ということがたくさん出てきましたね。

河野：これから未来を拓いていく人たちにとって、総合型クラブはオリンピックを通じて関わる地域の方のターニングポイントになりえる場をつくれる可能性があると思います。クラブも、地域も、結局は「人」が関わるのです。その人たちを繋げるきっかけとして、セッティングじゃないですけどクラブが何か提供できればいいなと思います。そういう人を増やして繋げていくことが財産だし、レガシーなのかもしれません。

鹿内：今日の話、子どもたちしてみたいと思います。中学校のゲストティーチャーとして話す機会があるので、どんな意見があるのか聞いてみたいです。一番影響を受ける世代、そしてこれから主役になる世代の意見ですからね。

大崎：オリンピック・パラリンピックが終わって「スポーツをやりたい」「あの選手みたいになりたい」という人の思いに応えるために、今から動き出さなければいけませんね。それは自分のクラブだけではなくて、全国のクラブのネットワーク、そして地域のコミュニティも含めてです。

菊地さんが経験された前回の東京オリンピックの思い出のように、一番大きなレガシーは目に見えない、心に残るものだと思うのです。それを残すために各クラブが主体的に動いていくことが、この4年間、そしてその後も必要になるのだと思います。

菊地：2020年、そしてそれ以降に向けてしっかり貢献できるクラブはきっと100年続くクラブなのだろうと思っています。このように、若い人たちが意見を出し合って、日本のクラブ全体が前に進めるような状況になるのが楽しみです。

クラブマネジャーから一言！



大崎 恵介

アスとれ総合型クラブ(山梨県) クラブマネジャー

中学校、高校時代をブラジルで過ごす。現在は山梨学院大学の特任講師をしており、運動遊びがスポーツにおける熟達化の中で果たす役割について研究している。

主な資格：(公財)日本体育協会公認アシスタントマネジャー
(公財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー



「一勝ではなく、一生」

河野 景子

NPO法人 都農enjoyスポーツクラブ(宮崎県) クラブマネジャー

福祉施設職員を経て、現在宮崎県児湯郡都農町の同クラブでマネジャー兼介護予防等の運動指導者として活動している。地域活性イベントの企画運営も行う。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー
健康運動実践指導者



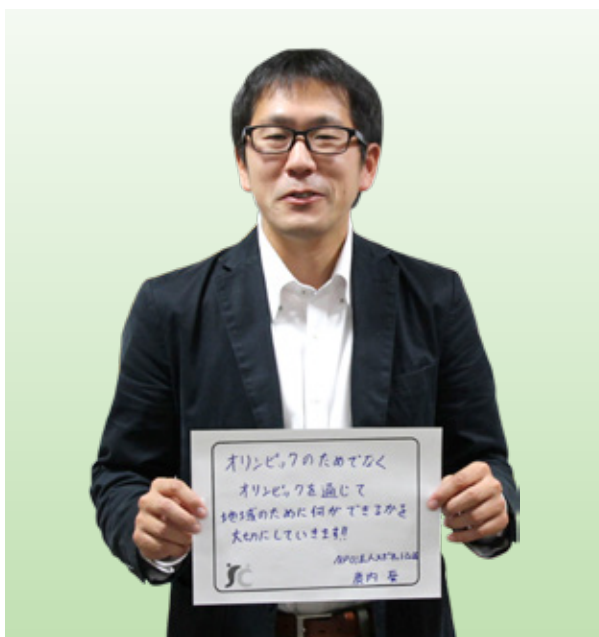
「地域の方々に必要とされ、地域にクラブがあって本当に良かったと思われる活動を」

鹿内 葵

NPO法人 スポネット弘前(青森県) 理事長・クラブマネジャー

弘前医療福祉大学非常勤講師、弘前大学特任講師。地域福祉の観点からスポーツを考え、総合型クラブを設立し現在も活動中。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー
社会福祉士、介護福祉士



「オリンピックのためでなく、オリンピックを通じて地域のために何かできるかを大切にしていきます!!」

菊地 正

NPO法人 高津総合型スポーツクラブSELF(神奈川県) 副理事長・クラブマネジャー

本メールマガジン編集委員長、SC全国ネットワーク代表委員(神奈川県)。100年続くクラブづくりを地域、学校、行政と一体となり行うとともに、新しい学校づくりの計画を推進している。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー



「一生の思い出に残るオリンピックを総合型クラブが作ろう!!」



みんなで盛り上げよう!

オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介

〔群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会〕

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて、国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、各クラブや総合型クラブ連絡協議会が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

わくわく交流フェスタ2016

- 実施日時 平成28年12月11日(日) 9:30～15:00
- 実施会場 ALSOK ぐんま総合スポーツセンター内
ぐんま武道館 大道場・第三道場
- 参加者数 251名(県内15クラブ) ※講師、役員含む
- 主催/主管 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
- 共 催 (公財) 群馬県スポーツ協会

<パラリンピック・ムーブメント>

パラリンピックスポーツを通して発信される価値やその意義を通して世の中の人に気づきを与え、より良い社会を作るための社会変革を起こそうとするあらゆる活動

※「第2期スポーツ基本計画の策定について(中間報告)」参照

1 企画経緯

年度当初の企画委員会において、2020年を見据えて、障がい者がクラブへの参加を考えたとき、まずは健常者と一緒に参加できる種目を知っておくことが大切であるとの意見がありました。そこで、県立盲学校に勤務されている直井由香先生（アテネパラリンピックのゴールボール銅メダリスト）をはじめとする3名の方に、今回のゴールボール体験会の講師をしていただきました。

また、県障がい者スポーツ協会の協力により、県ボッチャ協会を紹介していただき、ボッチャの体験会も実施できるようになりましたので、同時に2種目の体験が可能となりました。

2 企画内容

午前は、ラジオ体操・ZUMBA・ダンス&音楽系の発表があり、午後から「パラリンピックを体験しよう」ということでゴールボールとボッチャの体験会を行い、参加者を2班に分け、それぞれの種目を45分交替で行いました。

ゴールボール（講師3名）

【ルール】

目隠しをして鈴の入ったボールを交互に転がしあい、自陣ゴールを守りながら、敵陣ゴールに入れることで得点する競技です。前後半の12分ハーフで、より得点を入れたほうが勝利となります。コートに入る選手は1チーム3人です。



【当日の流れ】

まずはゴールボール競技の歴史やルールを紹介いただき、実際の競技映像を視聴し、ゴールボールの理解を深めました。その後、講師にデモンストレーションをしていただき、参加者もゴールボールを体験しました。

目を開けた状態でお互いにスロー（投げる）&セービング（止める）を行い、その後、目隠しの状態で同じようにスロー&セービングを行いました。ボールには、鈴が入っているため、会場を静かな状態にしながら行いました。



ゴールボールの講師「直井先生」によるスローイングの実技。的確なコントロールに参加者一同から驚きの声上がる。ボールを受けた人はスピードとボールの重さに驚きを隠せなかった。



音を頼りにボールのコースを確認する難しさを体験することで、パラリンピックでのゲームがいかに高度なことをしているのかを知る。時間の関係上ゲームまでは行えなかった。

| ボッチャ (ボッチャ協会関係者13名)

【ルール】

まず先行側がジャックボール (目標球) と呼ばれる白いボールを投げ、その後に赤 (先行側)、青 (後攻側) の6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりすることで、いかに持ち玉をジャックボールに近づけるかを競う競技です。すべて投げ終わった時点で、相手側よりもジャックボールに近い球数が得点になります。

障がいの重い方でも、足を使ったり、ランプ (滑り台のような補助器具) を使ったりすることで投球が可能になります。



【当日の流れ】

まずはボッチャのルールとゲームの仕方を紹介いただき、その後、各コートでボールを投げる練習を行いました。練習後は、子どもチーム対シニアチームといった具合に、対戦形式でゲームを行いました。

また、周藤穂香さん (ボッチャ現役プレーヤー) がゲストデモンストレーターとして、ランプを使った高い技術を披露されました。



ボッチャは、ルール説明のあと3つのグループに分かれて、3人ずつのチーム戦を行った。ジャックボールにいかに近づけるか？ 相手ボールを近づけさせないようにするか？ 頭脳戦の始まり…。



一球投げる毎に盛り上がったり、ため息をついたり、子どもも高齢者も一緒になって楽しいひとときを体験した。今度は障がいのある方とも一緒にゲームをできたらと、今後の展開に広がり膨らませた。

3 参加者・運営側の声

| 参加者の声 (実施後)

- 一日、楽しく過ごすことができたが、パラ種目はもっと時間があっても良いと思いました。
- 直井先生も周藤さんもそれぞれの種目において卓越した技術を持っておられ、参加者からは「すごい」「素晴らしい」の声が多数聞こえました。
- パラ種目は、障がいのある方と一緒にプレーできることはもちろん、子どもも高齢者も同じルールで実施できるので、クラブ内で行う種目としては最適であるように思いました。
- 簡単に実施できる種目ですが、奥が深く知れば知るほどおもしろいものだと思います。

| 運営側の声 (実施後)

参加者250名程度と予想し、武道館を使用しましたが、今後さらに参加者が増えることを考えると会場設定が難しいと思いました。次回、同様の企画を行う場合は、時間設定に余裕を持ち、

最後にゲームが楽しめる内容に改善したいと思います（ゴールボールは試合を行うことができなかった）。

今回のフェスタに学校関係者が4～5名来ており、障がい者の方との交流にゴールボールを利用したいと言って見学されていました。盲学校の先生方は、自分の学校のチーム指導もありますが、依頼があれば普及にも協力してくれるとのことであり、今後につながりました。

4 今後の展望

バリアフリーの考え方において、一緒にスポーツを楽しみ、スポーツを通して明るい社会づくりができることを目指したいです。これを機会に各クラブにおいては門戸を広げ、障がいがあっても気軽に参加できる雰囲気作りに役立ててもらいたいです。

今後も障がい者が健常者と一緒にできる種目をさがし、各クラブに紹介をしていきます。

（群馬県クラブアドバイザー 小林 秀光）

● 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会プロフィール ●

設立年月日：平成22年3月27日

所在地：群馬県前橋市関根町

■ 連絡先

郵便番号	371-0047
住所	群馬県前橋市関根町800 ALSOKぐんま総合スポーツセンター内
T E L	027-234-5555



みんなで盛り上げよう!

オリンピック・ムーブメント

オリンピック・ムーブメント事例紹介

[認定NPO法人 朝日丘スポーツクラブ]

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて、国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、各クラブや総合型クラブ連絡協議会が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

外国人案内ボランティアの育成

- **実施日時** [おせっかい活動] イベント時
[おせっかい活動に生かすための取組]
豊田良いところ勉強会（毎月第3土曜日10:00-12:00）、
英会話教室（毎週木曜日）
- **実施会場** とよた市民活動センター及び朝日丘スポーツクラブハウス
- **参加者数** 63名
- **主 催** Toyotaまるとおせっかい事務局
（認定NPO法人朝日丘スポーツクラブ）
<http://toyota-osekkai.com/>
- **協 力** おせっかいJapan（東京）

1 企画経緯

平成27年5月から、おせっかいなボランティアをすることを目的に、英会話教室を開催してきましたが、1年半を経過したところで当初の参加者40名から15名と減ってしまいました。

参加者を再募集する際に、ボランティアグループの名前や事務局体制をしっかりと作ろうということになり、事務局に若者を3名配置しました。同時にグループ名を「Toyotaまるごとおせっかい」とし、現在の英会話教室や勉強会を開催しています。

2 実施方法

クラブへの入会とは別に「Toyotaまるごとおせっかい」に登録（無料）した方がのみが、下記の勉強会・教室・イベントに参加できます。

勉強会：月に一度の豊田良いところ勉強会（平成29年度は複数回実施を予定）

教室：任意で参加できる英会話教室（3000円／月）

イベント：「おせっかい活動」

英会話教室



講師：アレックス先生
毎週木曜日19:00から20:30
朝日丘スポーツクラブ内での活動

豊田良いところ勉強会



毎月第3土曜日10:00から12:00
とよた市民活動センターでの活動

3 活動概要

2019年ラグビー W杯、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定をきっかけに、豊田に来て困っている外国人に対して、積極的に声を掛けて問題解決を「お手伝いしちゃう」という、市民のホスピタリティあふれる、ちょっと「おせっかいなボランティア」をする環境を整えようとする活動です。2020年以降も、この活動を継続することによって市民のおもてなしや親切な意識を地域に普及・定着させたいと思います。

この活動は、イベント時に主催者が募集する大会運営ボランティアではありません。あくまでも自主的な活動であって、外国人に「おせっかい」をして楽しんでもらったり、自らも楽しもうとする活動です。

企画内容「おせっかい活動」

【目的】

せっかく豊田に観光旅行やビジネス、ラグビー W杯、オリ・パラの観戦に来てくれるのであれば、「ついでに」豊田のいいところを積極的に案内しようという、ちょっとの「おせっかい&おもてなし」をします。外国人の方々が「良かった」「楽しかった」「また来たい」と思ってくれば最高です。

【活動】

豊田に来て困っている外国人の方に対して、積極的に声を掛けて問題解決をお手伝いしたり、地図やスマートフォンを見ながら固まっている外国人に声をかけます。また、豊田市民でもわかりづらいバスの路線案内や、ホテルの場所、美味しい日本食(天ぷら、スシ)のお店の案内等を、ボランティアが3~4人(英語が得意な人、豊田の街に詳しい人、コミュニケーションが得意な人等)でチームを組んで積極的にサポートします。

たとえ困っている外国人がいなくても、街の中で外国人を見つけて積極的に話しかけ、楽しくコミュニケーションを取っています。

ラグビー日本代表 VS スコットランド戦 (豊田スタジアム)



◀ 豊田市駅前通りでの活動

名鉄豊田市駅前での活動 ▶



10月15日 挙母祭り(挙母神社)



◀ ニュージーランド人夫婦・子どもにおせっかい活動

豊田へ出張中のベルギー人の方におせっかい活動 ▶



4 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- こちらから外国人に積極的に声を掛けていくという経験がなかったのですが、この会に参加し、少しずつですが、イベントが楽しくなってきました。
- もっと豊田の良いところを勉強し、豊田に来られた外国人の方におせっかいなぐらい案内したいです。

運営側の声(実施後)

市外からの参加者もいて、この活動を通じて、クラブのことを知ってもらい、色々なつながりができています。スポーツイベント時では、主催者からの依頼があり活動を行っていますが、市の広報誌(広報とよた)、ケーブルTVや新聞に何回か取り上げられ、クラブの認知度は向上しています。また行政や関係機関(まちづくり推進団体等)にもこの活動を理解してもらえているので、地域の情報や資料の提供を受けています。

外国人に気軽に声が掛けられるように、色々なイベントに参加し、ボランティアの経験を積み、2019年ラグビー W杯や2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け「おせっかいなボランティア」ができるようにしたいです。

5 今後の展望

【学び+交流+絆】

多言語を習得したいボランティアの「実践の場」でもあり「成長・学び」の場にもなります。ボランティア自身が豊田の良さを再発見し、さらに豊田が好きになり、楽しみながらこの活動をすることに意義があります。そして、人と人との交流が広がり多くの絆が結ばれ、より良い関係が築かれることを願っています。

2019ラグビー W杯、2020東京オリンピック・パラリンピック後も、この活動を継続していこうと思います。

(認定NPO法人朝日丘スポーツクラブ 事務局長 三田 博司)

クラブプロフィール

設立年月日：平成16年10月11日

所在地：愛知県豊田市朝日丘地区

特徴：子供たちがスポーツを楽しみながら体力、精神力などを磨き、10年、20年スポーツを続けることにより、やがて地域を支える大人になり、指導者として又はクラブのスタッフとして戻ってくる。そのような循環がスポーツクラブの正しい姿だと信じています。先進国のスポーツクラブでは、子供から大人までスポーツのみならず文化教室などいろいろな形でクラブライフを楽しみ、心身ともに健全な活動が展開されています。朝日丘スポーツクラブが100年続いた時、人々から「このクラブがあってよかった」「このクラブは私たちのクラブだ」と誇りを持って言えるクラブを目指しています。

■ 連絡先

郵便番号	471-0852
住所	愛知県豊田市御幸町1丁目34番地
T E L	0565-32-7812
F A X	0565-32-7813
Eメール	aspc7812@hm9.aitai.ne.jp
ホームページ	クラブホームページ http://www.hm9.aitai.ne.jp/~aspc7812/index.html Toyotaまるごとおせっかい事務局 Facebook https://www.facebook.com/toyota.osekkai/



みんなで盛り上げよう!

オリンピック・ムーブメント

オリンピック・ムーブメント事例紹介

[香川県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会]

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて、国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、香川県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

スロージョギング体験会

～東京オリンピック・パラリンピック競技大会聖火リレーに向けて～

- 実施日時 不定期開催（H27年度2回、H28年度1回）
- 実施会場 サンポート高松 セト・シーパレット付近
- 参加者数 各回15～30名程度
- 主 催 香川県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
（以下、連絡協議会）

1 企画に至った経緯

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催が決定して以降、連絡協議会でも「香川県の総合型クラブとして何かできないか」と話題になっていました。そんな中、県内クラブが主催となり、田中宏暁氏（福岡大学教授）を招いて「スロージョギング教室」を実施しました。これが大変好評で、県内の健康づくりの機運を高めるために連絡協議会として取り組もうということになりました。



平成27年6月23日のオリンピックデーに、連絡協議会として（公財）香川県体育協会を訪問。「もし東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーが香川県内で行われるとしたら、走者の最低1名を、県内総合型クラブの会員から選出いただけないか」と申し入れたところ「前向きに検討します」との回答をいただきました。

これを機に、連絡協議会会長が日本スロージョギング協会認定アドバンスインストラクターの資格を取得し、本格的にスロージョギングの普及・啓発を開始しました。H27年12月には、一般県民にも呼びかけ、連絡協議会主催の「第1回スロージョギング体験会」をスタートさせました。

2 企画内容

サンポート高松の海沿い「せとシーパレット」を会場に、1～2時間ほど海風の中を走ります。まず、参加者全員でコミュニケーションを取りながら準備体操を行います。その後、走り方の指導を受けたら、集合場所から1km先の「赤灯台」を目指して実際に走ります。

参加者が自分の運動量や体調にあわせて走れるよう、①はじめての1kmチャレンジコース、②2km完走チャレンジコース、③フリースロージョギングコースの3コースを用意しており、最後は参加者全員に連絡協議会会長手作りの「完走認定証」が手渡されます。



3 参加者・運営側の声

参加者の声（実施後）

「スロージョギングはメディア等で知っていましたが、体験したのは初めてでした。これなら自分でも継続できると思うので、これからも続けたいです」
「専用の道具が不要で、走るペースさえつかめば、いつでもどこでもできるのが魅力だと思います」
「ぜひ次回も参加したいので、開催が決定したらまた声をかけてください！」
「大人になると賞状をもらう機会がほとんどないので、完走証をもらえた事がとても嬉しかったです！」

Ⅰ 運営側の声（実施後）

スロージョギングは、誰でも気軽に取り組める種目ですが、まだまだ定着度は高くありません。興味を持ち継続してくれる人は1割いけばいい方ですが、私に関わって、香川丸亀国際ハーフマラソンに出場し、完走した方もおられます。こうした参加者が現れてくれると、とてもやりがいを感じます。

4 今後の展望

四国ブロッククラブネットワークアクション2016では、「地域につながるオリンピックムーブメント」をテーマにグループ討議をしたところ、「オリンピック・ムーブメントを盛り上げるため、事前の聖火リレーを、遍路道を活用して実施したい!」という声が上がりました。四国遍路を世界遺産に登録しようという運動にも協力できます。ぜひ実現したいものです!

（香川県クラブアドバイザー 山家春香）

クラブプロフィール

設立年月日：平成21年5月31日

所在地：香川県高松市

特徴：県内の設立済み26クラブが全て加盟し、市町を超えたクラブ交流のきっかけとなっています。年1～2回の研修会の他、県主催「県民スポーツ・レクリエーション祭」で総合型クラブ啓発ブースを出展し、総合型クラブのPRにも尽力しています。H26年度からは、NPO法人遍路とおもてなしのネットワークと連携し、四国遍路を盛り上げるため、各地域の遍路道を歩くウォーキングイベントも実施しています。

■ 連絡先

郵便番号	760-0014
住所	香川県高松市幸町1-1 香川大学教育学部野崎研究室内
TEL・FAX	087-832-1496
Eメール	nozaki@ed.kagawa-u.ac.jp
Facebook	https://www.facebook.com/UDON.kagawa.SC/